

# 悠久の京を訪ねて PartⅢ

Vol.10



KYOTO  
ARCHAEOLOGY CENTER

京は古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。  
京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により、縄文・弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。  
私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

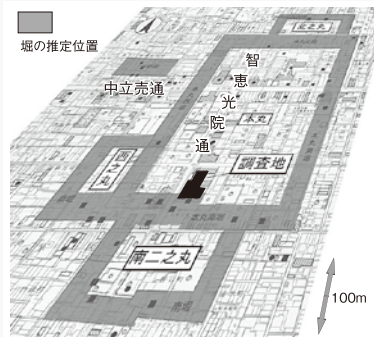
## 聚楽第の石垣

### ■天下統一と聚楽第

1585年、秀吉は武士で初めて天皇を補佐する関白となります。その折京都の公邸として構えたのが、聚楽第です。

聚楽第は、1586年に建設に取り掛かり、翌年に完成します。当時の屏風絵には、聚楽第には天守と多数の殿舎が建てられて、四周に堀と石垣を巡らせており、秀吉の栄華を象徴する豪華な城郭として描かれています。秀吉は、1588年には、後陽成天皇を聚楽第にお迎えし、天皇の前で徳川家康ら有力大名に秀吉への忠誠を誓わせ、1590年に全国統一を成し遂げました。

翌年、秀吉は関白職と聚楽第を甥の秀次に譲りました。し



聚楽第の復元図(馬瀬智光氏案)

かし、嫡男秀頼が生まれると、1595年には秀次を高野山に追放し、聚楽第は破壊され、その殿舎は秀吉の隠居屋敷として普請が進められていた伏見城などに移築されました。

### ■豪壮無比の石垣

昨年に行われた発掘調査の結果、聚楽第本丸の南端の石垣が、長さ32mにわたって検出されました(写真)。石垣の大部分は一辺0.7~1mの花崗岩で、ほとんど加工した痕跡のない自然石をうまく積み上げています。3~4段が遺存しており、残存高は最大で約2.3m、石積みは約55度の勾配で、緩やかであることが大きな特徴です。

江戸時代の城郭では高石垣とも言われる急傾斜で高い石垣が造られます。平城において高石垣の技術が確立していなかった秀吉の時代にあって、大きな自然石を高く積み上げているところに高度な技術が見て取れます。信長の安土城以後、各地の城郭で石垣が造られますが、聚楽第の石垣は、自然石を使った石垣では突出して大きいものです。

朝廷や全国の大名を圧倒するために、最高の技術と贅を尽くして建てた秀吉の権力が、石垣を見ただけでも伝わってきます。



聚楽第跡



姿を現した本丸の石垣